

施策評価シート

1. 基本情報			対象年度（28年度）						
施策コード	421		施策名	自然環境の保全					
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち（「基盤づくり」の分野）							
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち							
主担当部	都市整備部		主担当課	水と緑の環境課		係			
担当者	佐々木 秀貴		役職	都市整備部長		内線			
関係課	生涯学習スポーツ課								

2. 施策の方向			
10年後の姿	雑木林、崖線、屋敷林などの緑地や河川など、豊かな自然環境が適切に保全されています。		
施策の方向性	1	自然の大切さを広め、緑地や水辺など自然環境の保全に努めます	
	2	雑木林の再生と水辺と親しめる環境を整備し、うるおいを感じるまちづくりを進めます	

3. 構成事業の状況				(単位:千円)			
No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度予算
0104010401	環境衛生事務事業		1	水と緑の環境課	2,267	2,042	2,466
0108030504	緑地保全事業	対象	すべて	水と緑の環境課	60,005	29,470	24,198
0108030508	カタクリまつり事業		すべて	水と緑の環境課	589	602	555
0108030510	柳瀬川回廊事業	対象	すべて	水と緑の環境課	478	763	5,744
0110050113	清瀬下宿ビオトープ公園管理事業		2	生涯学習スポーツ課	2,329	2,456	2,461
総事業費(施策の合計)					65,668	35,333	35,424

4. まちづくり指標									
指標情報					平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成31年度	平成37年度
①	名称	市が保全する緑地の面積			目標値	—	5.2	5.2	5.2
	説明		単位	ha	実績値	5.2	5.2		
	抽出方法	公有財産台帳など			達成率	—	100.0%		
②	名称	緑被率			目標値	—	40.1	40.1	40.1
	説明		単位	%	実績値	40.1	40.1		
	抽出方法	航空写真等			達成率	—	100.0%		

5. 評価(平成28年度実績に対する)			
評価基準		評価※	評価理由
投入財源・成果 （「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」に対する評価）	総合評価 （成果、投入財源等を総合的に評価）	C	自然環境団体と市の協働による雑木林の再生などにより、緑比率の維持に努めている。しかし、相続による畑の減少により、緑被率の維持は年々難しくなっている。このような中、緑地の減少を防ぐため、国・都補助金等を活用した公有地化を進めている。今後は土地所有者などから情報収集を行い、財源を考慮した長期的な購入計画を策定する必要がある。

※A 「10年後の姿」を達成するために、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の達成が十分
 B 「10年後の姿」を達成するために、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」に一部課題がある
 C 「10年後の姿」を達成するために、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の達成が不十分

施策評価シート

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズ の状況	満足度調査(平成25年度)では、自然環境の保全の重要度が24項目中23位と低位であった(住環境・公園の整備は7位)。	3.施策の必要性を高める	清瀬市の緑被率は約40%であり、他市よりも高い水準にある。これは、豊かな自然と調和したまちづくりを推進するためには、非常に有利な状況である。 この満足度調査の結果は、豊かな自然が残る清瀬の魅力が十分に発信されていないことを表すものであるため、市民に対する意識啓発や関心喚起の機会を増やしていく必要がある。
将来人口 の推移	高齢化社会の進展。	3.施策の必要性を高める	緑は、人に潤いと安らぎをあたえる。今後の高齢化の進展を見据えて、緑を身近に感じてもらうためにも、緑地の保全や散策路等の整備が重要になってくる。
他自治体 との比較	近隣5市の中では、緑被率が一番高い。	1.施策遂行に役立つ・有利	市の魅力として、より一層取り組みを推進するのに有利。一方では、その緑の多くが生産緑地ということが課題。
民間企業・NPO ・市民の動向	緑地保全の活動は、その多くが組織化された環境団体に頼っている。しかし、その団体も高齢化しており、後継者が不足している。	2.施策遂行に不利	場合によっては、自治体よりも専門的であり、活動も積極的であるため、環境団体の後継者不足は施策の後退につながる。

7. 今後の施策課題

No.	今後の施策課題(平成30年度に向けて)	左記課題に関する現在の取組状況
①	財政状況が厳しい中、計画的に緑地を購入していくことが困難である。	常に緑地の所有者と連絡を取り合う中、国・都補助金の活用が可能であるときに公有地化を進めている。
②	雑木林の再生の象徴事業としてオオムラサキの飼育を実施して6年目となったため、新たな展開に向けて検討することが必要である。	三郷橋付近やせせらぎ公園、金山緑地公園などの水辺の緑も豊富になってきたことから、放蝶などのイベントも検討していく。